



死亡事故ゼロ1,000日達成で、記念総会となった安協市浦支部の会員らは、これからもがんばろうと語り合っていました。

1500日達成へ
誓いも新たに

交通死亡事故ゼロ1000日達成 安協市浦支部で記念総会

本日は、昭和五十八年八月二十三日磯松地区の国道三三九号線で、若者の運転する暴走車が砂防林に突っ込み一人が死亡したのを最後に、交通死亡事故は発生しておらず、五月十九日で、ゼロ千日を達成しました。

五月二十日午後七時から基幹集落センターで通常総会を開き、交通死亡事故ゼロ千五百日達成へ向けて、誓いを新たにしました。

総会では、白川支部長が、「交通による死亡事故ゼロ千日達成は、地域内のすべての団体が一体となって運動を展開した成果である。千五百日

今日の主な記事

- 安東のふるさと整備-----2~3
- サケの稚魚放流
クリーン作戦-----4
- 市浦牛の放牧-----5
- ホームヘルパーを増員-----6
- おしらせ-----7
- 健康への道
戸籍の窓-----8



1人1人の自覚が事故防止につながる…激励する坂田署長

二千日達成へ向けて更に心を引き締めてがんばります」とあいさつしました。

このあと、交通安全功労者や優良運転者に対する表彰状の伝達、来賓として出席した坂田宗等金本警察署長、土城輝雄金本地区交通安全協会会長らが「死亡事故ゼロの記録を伸ばしてほしい」と激励しました。



安東のふるさと

史跡ルート整備着々

中の島公園 ロールスケート場 ゴーカート場

近々仮オープン

海と山と湖…。美しい自然に恵まれていた本村は、地域の魅力を掘り起こそうと、昭和六十年度から三カ年計画で「安東文化のふくらみ計画」

「安東文化のふくらみづくり」は、昨年県がスタートさせた「過疎地域活性化プロジェクト事業」と国土庁の「山村地域資源高度活用促進モデル事業」に相次いで指定されたことから始まりました。

地域の自然景観や文化、歴史、経済等の社会環境は、重要な資源であり、自然と人の対話、人と地域とのふれあいを基調に据えた未来型観光開発を進めようとして、十三湖によるところの大きい十三地区を「湖辺型観光」、安東氏に係る遺跡の多い相内地区を「史跡型観光」に位置づけ、十三湖中の島公園と相内地区の史跡ルートを有機的に連絡させ、津軽安東文化発祥の地にふさわしい「安東のふるさと—しらふ」のイメージアップ

に着手し、安東氏に係る遺跡の保存、遊歩道、展望台などの事業を計画的に進めています。また、観光の目玉となる十

三湖中の島公園のロールスケート場や交通広場(ゴカート場)と隣接し、同収納庫、公衆便所等も完成し、関係者は観光立村への期待を寄せています。

また、観光の目玉となる十

をはかろうというものです。活性化プロジェクト事業に係る三カ年の総事業費は、約四億一千六百万円、うち約一億円は国と県の補助金を利用しては起債(過疎債等)や自己財源で賄う予定です。

唐川城跡の整備では、遊歩道、春日内観音堂周辺遊歩道等環境整備をしたほか、展望所、公衆便所、史跡案内板を設置しました。

大沼公園整備では、大沼一周遊歩道(約2.5km)、木橋(縄文の橋70m)、弥生橋(12m)を整備したほか、駐車場、案内板、植栽工事等を実施しました。

また、国土庁の指定を受けた「山振モデル事業」では、中島地区に木造平屋建ての「活性化センター」を建設、遺

跡や歴史、民俗資料室のほか交流コーナーや体験実習室、レストラン等を配置し、定期的に安東氏の歴史を語るシンポジウムや村内の遺跡から出土した土器類などを集めた特別展示会を開くこととしています。

本村にはこのところ、遺跡や史跡を訪れる人が多くなりましたが、中でも山王坊遺跡は専門家から注目を集め、東北大学や東北学院大学等の学者が毎年発掘調査をしており、



大沼一周遊歩道には、縄文の橋、弥生の橋が架けられた
(写真 縄文の橋)

寺院跡であることが明らかになっています。

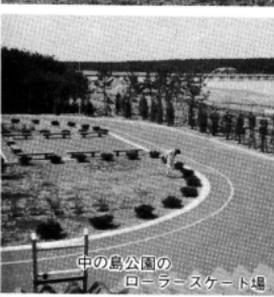
県の活性化プロジェクト事業は、昭和六十二年、国土庁の山村地域資源高度活用促進モデル事業は昭和六十二年まで継続して実施されましたが、村では、これらの事業が、村に地元商工会、観光協会等関係団体にも呼びかけ、観光立村への期待と過疎に歯止めをかけようという意欲を燃やしています。



唐川城跡に新築された公衆トイレ



唐川城跡展望所



中の島公園の
ローラースケート場



福島城跡木丸跡に設置
された標柱

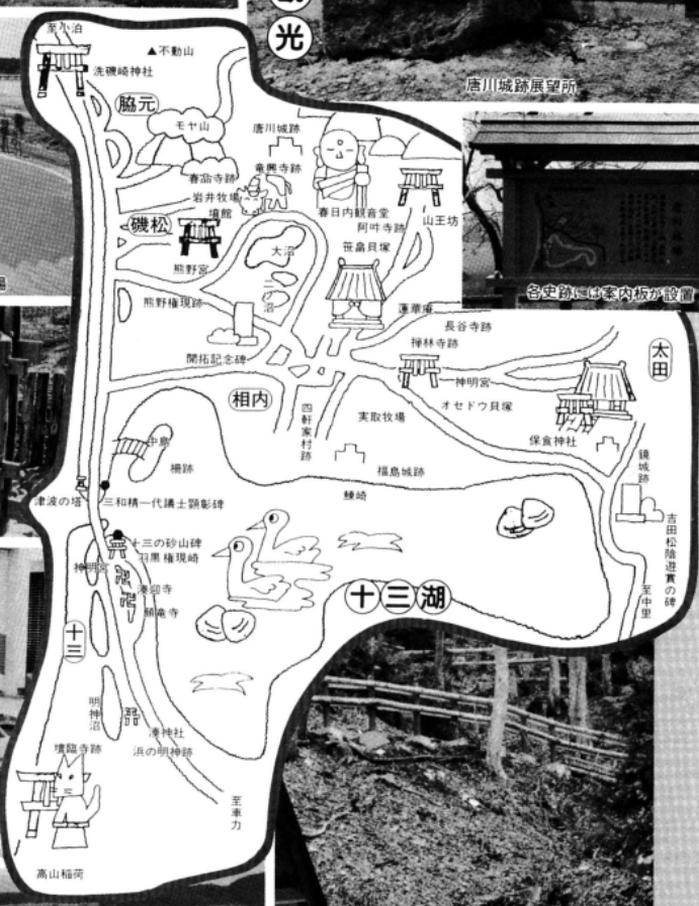


中の島公園には、コー
カート、ローラースケー
ト、輪車等を配置



中の島公園の交通広場（コーカート場）

歴史と観光
マップ



十三湖

至車力

至中里

至山崎

至中里



唐川城跡（春日内観音）の遊歩道

サケの稚魚放流

十三湖を忘れないでね



▲サケの稚魚を放流する子供たち

▶ふ化場から稚魚を運び出す関係者

本村は、昭和五十四年からサケ・マス放流事業を実施していますが、今年は、四月十六日と二十八日の二日に分け、二百五十万一千匹を放流しました。

トラックで運ばれてきた体長五〜六寸の稚魚を、持参したバケツに移し、次々と放流、「大きくなって帰っておいで」と、稚魚は流れの中を元気に泳いでいきました。

この日放流した稚魚は、卵からかえって約八十日、稚魚は十分。水中に放すと流れにさらされて上るもの、水面から躍り出てウロコを光らせるなど、どの魚も元気いっばいの泳ぎっぷりで、十日から二週間ほど前浜にとどまり、十三湖を回避したあと外洋に出ます。

三十四年後には、約二千匹帰ってくるというところで、子供たちは小さなバケツで稚魚を川に放してやりながら、「大きくなって帰っておいで」「十三湖のおいを忘れないでね」と、厳しい自然の中へ旅立っていくサケの稚魚を見送っていました。

三十四年後には、約二千匹帰ってくるというところで、子供たちは小さなバケツで稚魚を川に放してやりながら、「大きくなって帰っておいで」「十三湖のおいを忘れないでね」と、厳しい自然の中へ旅立っていくサケの稚魚を見送っていました。

三十四年後には、約二千匹帰ってくるというところで、子供たちは小さなバケツで稚魚を川に放してやりながら、「大きくなって帰っておいで」「十三湖のおいを忘れないでね」と、厳しい自然の中へ旅立っていくサケの稚魚を見送っていました。

村内から ゴミ一掃

村民挙げて クリーン作戦

昭和五十四年六月「環境美化の村」を宣言した本村は、美化をはかるため、五月一日から管理人を配置しました。同処理場利用の際は、管理人の指示に従うようお願いいたします。

同処理場の利用は原則として、村内の一般家庭から排出されるごみ（無料）に限定されていますが、事業所等から排出されるごみは一立方メートル二百円（二トトラック一台四百円）を徴収します。

昭和五十四年六月「環境美化の村」を宣言した本村は、美化をはかるため、五月一日から管理人を配置しました。同処理場利用の際は、管理人の指示に従うようお願いいたします。

同処理場の利用は原則として、村内の一般家庭から排出されるごみ（無料）に限定されていますが、事業所等から排出されるごみは一立方メートル二百円（二トトラック一台四百円）を徴収します。

を次々拾い上げました。このあと、側溝のドロ揚げ作業が行われ、集められたゴミやドロは、五所川原土木事務所、町内会で用意したトラックで運ばれ、一年ぶりにきれいな側溝をとりもどしました。



岩井（ごみ処理場に設置された監視舎と管理人の三浦さん

早朝から国道沿いの空気を捨てる村民



“市浦牛”の放牧始まる

村営牧場五カ所に515頭

村営牧場で、今年も八日から牛の放牧がはじまり、この冬生まれた子牛は、初めてみる広い野に大はしやぎ。親牛の周囲を元気に跳ね回っていました。

本村は、昭和三十二年から黒毛和種肉用牛の育成に的を絞り、村営の草地造成と肉牛



体重測定や検査をしたあと放牧します



放牧された市浦牛

の増産に努めてきましたが、いまでは、市浦牛として、中央市場でも銘柄牛として知られるまでに成長しました。村では、昭和五十三年から高齢者や出稼ぎ農家を対象に子牛の貸付制度を導入し、飼養農家の拡大に努めています。現在の飼養農家は五十五戸

で、やや減少傾向にあります。が、飼養頭数は年々増え続け、現在千三十三頭（農家肥育、畜産振興公社含む）を数えるまでに増えました。昭和五十五年からは、約九徳田の事業費で、県営草地開発事業、国営等草地開発附帯事業が実施されており、昭和六十四年度まで継続されることになりました。

この事業では、百四十二口の草地が造成され、既存の草地面積と合わせると三百三十一口になります。

今年も、岩井牧場を皮切りに村内五カ所の牧場に放牧されましたが、冬期間、各農家で飼育されていた牛が次々運び込まれ、登録票をつけたり、鼻紋をとったり、県木造家畜保健衛生所などから派遣された職員から、病気がないかどうか検査を受け、鼻印には農家の人たちに見守られるが放牧されました。広い野原で十月下旬まで過します。

脇元のお不動山に 遊歩道と展望所を整備

氏子青年会がバックアップ

村ではいま、安東のふるさとづくりを中心に、史跡観光



小雨まじりの天候でしたが作業は順調



脇元部落を眼下に……



建て前を終え、おはらいをする関係者

光を打ち出し、その施設整備も着々と進められていますが、脇元地区の青年たちが、お不動山に遊歩道や展望所を建設して、関係者から注目を集めています。

建設を計画したのは、地元

の有志で組織したお不動山遊

歩道・展望所建設実行委員会

（委員長・山田弥佐雄）です

が、洗心崎神社氏子青年会（

会長・竹谷博）が、全面的に

バックアップしています。

山頂に建設された展望所は

木造平屋建ての十九・八平方

米。敷地の整地、基礎工事の

ための砂利やセメント、水等

の原材料はすべて人力による

もので、会員十五人で約十日

間の運搬作業をしました。

五月二十日には、念願の建て前をしました。この日は十五人の会員がそれぞれ材料や荷物を担いで山頂へ。昼過ぎには洗心崎神社松浦浄満宮司のお払いで、横上げの儀式を終えました。

お不動山は、かしの群生

林と山つじが一面に敷きつ

め、見るからに、自然庭園。

そのものです。展望所からは

下前、権現崎はちろん十三

湖、岩木山等西海岸一帯が眺

までき、日本海に沈む夕日も

また絶景です。

その昔、安東氏繁栄のころ

は、十三湊に出入りする安東

水軍の勇姿を目の当たりに出

来た地であることも憶はれま

す。

検診で健康を確かめよう

保健衛生協力委員が対策会議

十一年度の保健衛生事業計画を中心、検診率を高めるた

めの方策や環境美化の推進等について話し合いをしました。



地域の保健衛生活動について語り合った対策会議

地域住民の保健衛生活動を末端まで浸透させるため、役割分担を明確にし、相互の連携を深めよう」と、五月七日保健衛生協力委員十八人が基幹集落センターに集まり、対策会議を開きました。

保健衛生協力委員は、村内各地区から選任された三十四名をもって構成され、それぞれ担当区域を持って、地域住民の保健衛生活動に協力しています。

この日の会議では、昭和六

赤十字救援車

「博愛号」が更新配置

日本赤十字社東支部では、赤十字救援車「博愛号」を、

緑が手渡されました。

今年も四月二十五日、青森市長島一丁目の日赤東支部で、

博愛号の配置は、昭和五十五年度から毎年行っています

同支部で行われた配置式には、

が、今年市浦村、脇野沢村、南郷村、金木町、蜂ヶ沢町、

は、本村から工藤誠一郎助役が

村では、配置された博愛号を福祉活動に役立てることに



更新で配置された赤十字救援車「博愛号」

昭和六十一年度の主な事業としては、循環器・結核検診・胃がん検診(便潜血反応検査)・乳がん・子宮がん検診、健康教室、健康相談、等が計画されており、事業が実施される

度、担当地区の協力委員が受診のビジュアルをするほか、受診者のとりまとめ、受診票の配布など、積極的な活動を展開することになっています。

また、「衛生ごよみ」、「広報しづら」などでも、検診内容をお知らせすることにして

ますので、健康を守るために、対象者は必ず受診するよう呼びかけています。

心の支えに

ホームヘルパーを2名増員配置

よろしくおねがひします

出稼ぎ、若者の流出などから核家族化が進み、寝たきりや独居老人の介護の問題が深刻化しています。

本村においても、介護する家族がいなくなり、独り暮らしを余儀なくされているお年寄りが多く、介護の必要なお年寄りは現在五十四人います。

村では、昭和四十五年頃からホームヘルパー派遣事業を進め、お年寄りの身の回りの世話や介護をしてやり、お年寄りから喜ばれています。

村内全部の介護の必要なお年寄りを一人でカバーするのはむずかしくなりました。

村では、これに対応するため五月一日から二名のホームヘルパーを採用し、相内、脇元、十三、各地区ごとに配置することにしました。

今回採用された二名を含めて、三名のホームヘルパーは、お互いに連絡し合いながら、「独り暮らしや寝たきりのお年寄りたちのために、少しでも心の支えになるようにがんばりたい」と、はりきっています。

各地区に配属されたホームヘルパーは、次のとおりです。

▼三和テツエ(相内・桂川・太田地区担当) ▼和嶋タマエ(久保田久子十三地区担当)



久保田久子さん 和嶋タマエさん 三和テツエさん

情報をお寄せください

おしらせ

役場の電話は62-2111



婦人スポーツの集い 参加者募集中

婦人スポーツの集いは、あすなろ団体を契機に開催され、婦人スポーツの普及を目的に行なわれてきました。

開催日には、むつ湾一周駅伝大会、あすなろ県民推進運動も同会場で開催され、華やかな雰囲気の中で集団演技（マスケゲーム）、レクリエーションダンスなどが県内一円から集まった婦人方によって行なわれます。

開催日

10月5日(日)

開催場所

青森市総合運動公園

参加資格

市浦村在住の婦人であればどなたでも参加できます。

申込詳細

市浦村教育委員会、社会体育係
(電話・62-3751)

B & G屋内プール開館

待ちかねていた水泳シーズンが、市浦村にも一足先にやってきました。

B & G屋内プールは、プール全体に、特殊ビニールシートがはられているため6月でも、水温は22度以上、室温は天候がよければ30度以上にもなります。

水泳は、健康にたいへんよく、たくさんの市民の利用をお待ちしています。

期間 6月1日～10月中旬

▼成田永吉

磯松市赤川三の五〇

電話①三二五五番

▼安田源蔵

十三字津九七

電話①三四二六番

■平日

午前	10:00～12:00
午後	1:30～5:00
夜間	6:00～8:00

■日曜日

午前	10:00～12:00
午後	1:30～5:00

※休館日 月曜日

健康確認のチャンス

結核検診、循環器検診を

受けましょう

レントゲン撮影は、着衣のまま出来ませんが、金具(ネックレス等)は外して下さい。配布の受診票にご記入の上ご持参下さい。なお、くわしいことを知りたい方は、役場民生課(電話・62-2111・内線36番)へおたずねください。

期日	場 所	受付時間
6月2日	桂川保健福祉館	9:30～11:00
2日	太田生改センター	13:30～15:00
9日	十三公民館	13:30～15:00
10日	臨元老人生きがいセンター	13:30～15:00
11日	市浦診療所	13:30～15:00

納税貯蓄組合に加入を

村には、37の納税貯蓄組合があり、納税貯蓄組合への加入率は、現在70%程度となっています。税

お互いに入権を守って明るい社会をつくるのが、私たちの願いです。

◆市浦村の人権擁護委員は次のとおりです。

▼鳴海藤雄
相内字相内七七
電話①一〇六三番

▼成田永吉
磯松市赤川三の五〇
電話①三二五五番

▼安田源蔵
十三字津九七
電話①三四二六番

人権は、人間が平和に生きて行く上で、最も大切な権利です。自分だけでなく、あなたもみんな人権が尊重されなければなりません。つまり、人権は共存するものなのです。

昭和二十四年六月一日に人権擁護委員会が施行され、国民の基本的人権を擁護し見守る、いわゆる民間人による人権の番人の機関が誕生したので、これが人権擁護委員制度の始まりです。

人権は、人間が平和に生きて行く上で、最も大切な権利です。自分だけでなく、あなたもみんな人権が尊重されなければなりません。つまり、人権は共存するものなのです。

自然があるっていいな。ボク砂遊び大好きなんだ。

三上義文さん(相内) 二男 準人ちゃん(5歳)



金を納税貯蓄組合に入って納めた場合、分割納付ができ、納付しやすくなるなどの利点があります。納税貯蓄組合への加入は、近所の納税貯蓄組合長までお願いします。

税のなんでも相談

工商業者、一般住民の皆さん、税に関する悩みや疑問がありましたら、ぜひ「税のなんでも相談」を御利用下さい。

たとえば、土地・建物の譲渡、相続、贈与に関すること、その他紙張や経営、税のことならなんでもお気軽に、ご相談下さい。

■とき 6月13日

10:00～15:30

■ところ 市浦村商工会

※相談者は、6月10日までに商工会へお申し込んでください。

死亡事故——

ゼロ1000日達成で表彰を受ける

本村は死亡事故ゼロ1000日を達成し、5月20日に県知事表彰を受けました。また、村交通安全対策協議会は県警察本部長より感謝状を受けました。

同日午後1時30分、三上常一総務課長が県庁を訪れ、若瀬多喜造副知事から表彰状が手渡されたあと、県警本部で太田泰徳交通部長から感謝状の贈呈を受けました。

表彰状などはさっそく交通安全協会市浦支部通常総会の席で披露され、会員らはさらにゼロの記録を伸ばそうと誓い合っていました。

お気軽に相談を

相談は無料で
秘密は守られます

日本が戦後新しく生まれ変わったとき、何よりもまず国民の基本的人権の擁護と人権思想の普及高揚が強く求められ、基本的人権の尊重を基調とした日本国憲法が制定されました。



落ち着いて ゆっくり休める環境を

が立たないようぬれ雑巾、化学雑巾でふき掃除をしよう。また、はたきなどを使って、まこりを舞い上げるとは避けてください。

病人には、ちよっとした匂いも病人になるのです。食後の片付けや便器の後始末は、できるだけ早く済ませましょう。

理想的な病室
四つの条件

病人が落ち着いてゆっくり休める環境は、病気の苦しみを軽減し、回復を早める上にも役立ちます。住宅事情が許

は、手洗いや洗面の時間を利用して手早く済ませます。

水道週間 6月1日〜7日 水道は暮らしを守るお母さん

遠い昔—この地球上に、四つの文明が時を前後して、大河のほとりに誕生したことはよく知られています。インダス文明、黄河文明、エジプト文明、メソポタミア文明—とうとうと流れ大河は、そこには住む人々に豊かな土地を与え、日常生活に必要な水をもらし、文明を栄えさせました。

その大河のひとつにエジプト文明を生んだナイル川があります。古代エジプト人はナイル川の水を大切にし、ナイル川が運んでくるとの恵みに感謝していました。そしていつかナイル川を、母なるナイルと呼びはじめたのです。わたしたちが普段なにげなく使っている水にも、その歴史をさかればば世界の文明

を大きくんだ大きな足跡があったのです。

暮らしを支える水道は
『自然の恵み』

現代文明は、水の道をつくり出しました。

わたしたちは、水道の水は蛇口をひねればいくらでも出てくるものと思いがちですが、実はそうではありません。何日間も日照りが続けば、水が枯れ、は底をつき、節水が叫ばれ、わたしたちの生活は大きく

よちに、光源の位置などを工夫してほしいものです。

▼風通しのよいこと
空気の入れ換えは、病室に障らない範囲で、一時間に一回、一分間を目安に行います。換気には、戸外に面した窓や扉を開けて空気を入れ換える、直接換気と、隣室や隣り合った廊下の窓などを開けておいた、病室の出入りの際にきれいな空気が流れ込むようにする、「間接換気」があります。どちらの場合も、室温が急激に変化したり、風が直接病人に当たらないよう、つい立てやぶようぶのようなものを利用してくださいます。つねに窓や戸にすき間を開けておくのも好ましくありません。

な支障をきたします。このようににどろろにけなく使っている水道の水は、自然の力に大きく左右されます。また、安心して飲める水をつくりだすのに膨大な費用がかかっています。

古代エジプト人が、母なるナイルと呼び、水を大切にしましたように、自然の恵みの水をとり入れ、お金をかけてきれいにし、パイプを通じて供給される水道の水を大切にしましょう。

静かであること
機械音やテレビの音、戸の開閉音、足音や人の話し声、笑い声などは、病人にとつて気になるものです。特に夜間は大きく響くので注意します。

▼明るく日当たりがよいこと
昼間でも薄暗くしては心が沈みがちになります。また、あまり日差しが強く当たりすぎると、目やカーテンなどを使ってお、直射日光を調節してください。夜の照明もまぶしくない

おくのも好ましくありません。

おくのも好ましくありません。

窓の戸籍

お誕生

- 石岡 城幸(脇元) 芳幸
- 三浦 邦雄(相内) 恭武
- 奈良 太樹(北田) 雅彦
- 奈良 泉(太田) 唯英
- 新岡 将太(十三) 一二美



ご結婚

- 三和 正大(相内)
- 山崎 安希子(北海道)
- 葛西 篤人(脇元)
- 木村 真由子(東京)

三浦美智男さん(相内)
長女 瑞絵ちゃん(8ヵ月)

芦野公園の桜まつりで、タコちゃん。買いました。おばあちゃんも大好きな瑞絵ちゃん。



- おくやみ
- 加福 正人(十三)
 - 林 志乃(北海道)
 - 二 富夫(山形)
 - 中 江利子(磯松)
 - 成 田一彦(脇元)
 - 青 山(中里)
 - 森 浩(山形)
 - 福 井理恵子(十三)
 - 小 引和雄(脇元)
 - 三 林明美(富山)
 - 森 節子(福岡)
 - 白川 そよ(相内) 90歳
 - 小林 貞善(小泊) 57歳
 - 竹谷 史樹(脇元) 40歳